

編集後記

今月号の特集は腰痛であった。腰痛は誰でも一度は経験するくらい多いものであり日常診療では患者さんが診察室へ入って来て主訴が腰痛だというときまたかとうんざりするほどである。これほど多い疾患でありながら研究法のアプローチは手とか膝に比較してどうもむづかしい。それで腰痛発生の機序などを研究しようとするときどうしてもある部分だけを捉え、自分は知らぬ間に少々偏った方向へのめり込んでしまう。元来整形外科の扱う疾患なのだが現実には内科も外科も産科でも扱っている。そして治療法は手術療法は限られた範囲に限られた種類の方法しかなく、ほとんどが保存的治療で何とかうまくやって行ける。

それで外科医も何となく情熱がさめてしまう。こんな感じの領域である。しかも腰痛の発生に関して1934年の Mixer & Barr の与えた影響が大きすぎてあらゆる痛みを椎間板に帰因させようとする傾向があり、これがどうも納得出来ない。いろいろ complicated な factor が関与しているに違いなく、わからない

ことだらけである。そのような意味で専門家に現在までの知識を集約していただいた。辻氏の脊椎の加齢変化は今日の人口構成から見てももっともわれわれの関与せざるを得ない老人の腰痛疾患治療の上で基礎的な病態生理を平易に説明している。診断の手技に関する桐田氏の論文も期待通りの要を得たものであるが、長年にわたり不必要な検査をしないで診察手技の精密度を増すことにより正しい診断に到ろうとする努力に同感である。昨今ミエログラフィやシンチグラムなど安易に用いられ、ともすれば診察手技はおろそかになりがちな点を反省したい。腰痛疾患の治療は大部分が保存的に行われるので永田論文、それに兵頭氏のハリ治療の項はわれわれにとっても大いに実用性があるものである。比較的一般の腰痛に関する記述のみでなく、多少変った面から検討を加えてみるのも一案と考えこのような特集になった。もちろんその他、脳卒中患者の初期ハリのあるべき姿のシンポジウムも読者に興味深いはずである。

(大井 淑雄)

編集顧問

天 児 民 和
大 島 良 雄
小 池 文 英
砂 原 茂 一
津 山 直 一
水野 祥太郎

編集委員

明 石 謙
上 田 敏
大 井 淑 雄
大 川 嗣 雄
荻 島 秀 男
土 屋 弘 吉
横 山 巖

編集同人

赤 津 隆
今 田 拓
今 村 哲 夫
江 口 寿 栄 夫
小 野 啓 郎
河 邨 文 一 郎
五 味 重 春
沢 村 誠 志
杉 山 尚
武 智 秀 夫
永 井 昌 夫
中 村 隆 一
野 島 元 雄
間 得 之
長 谷 川 恒 雄
橋 倉 一 裕
平 方 義 信
福 井 圀 彦
三 島 博 信
渡 辺 英 夫
飯 田 卯 之 吉
遠 藤 千 恵 子
小 川 孟
加 藤 一 郎
小 島 蓉 子
笹 沼 澄 子
鈴 木 明 子
高 田 玲 子
陳 慧 玉
土 屋 和 夫
松 村 秩
(以上五十音順、敬称略)

(細田、鹿島)

次 号 予 告 (第 6 巻 第 6 号)

特 集 脊 損 の 自 律 神 經 機 能

自律神経系の解剖と生理……………都老人研 佐藤昭夫・他
排尿と性機能障害……………東北大泌尿器科 今林健一
脊損の消化管機能障害……………神奈川リハセンター 山本敬雄・他
頸髄損傷者の自律神経異常と腹帯効果…水俣市立湯之児病院 浅山 晃
自律神経過反射……………神奈川リハセンター 宮崎一興・他

講 座 筋・神経系の電気診断 (6)

(筋電図波形および周波数分析)……………川崎医大 土肥信之

一頁講座 関節 (6) (関節の生化学的特性)……………都養育院病院 五十嵐 三都男